

ウドムサイ (Oudom Xay) のまちについて

ウドムサイの町の概要、産業の特徴などについて書いて見ようと思います。  
 中国国境と北部の古都・観光地ルアンパバーンとの中間点にあたり、道路交通の要衝。空港もある。中国は勿論、タイやベトナムとも結ばれているところから北部における貿易の中継点となっているようだ。北へ向かう商人や旅行者が必ず通過する地点のためか、ホテル、ゲストハウス、レストランの施設は整っている。中国人商人や移民も多いらしく、中国語看板があふれている。  
 比較的平坦で豊かな農地が広がり、広い里山、その背後に深い山が控え、広大な農村地域が後背地となっている。この地域の農林業生産力はこの国の中でも有数と思われる。豊かである。このことから、まちは生業の命綱である自動車・バイクの販売修理業、農器具の販売業（農機は全て中国製）、農家経営に必要な小農具・刃物・など日本のホームセンターにあるようなものを扱う店、開発が進んでいることから建築資材・建設資材を扱う店、これらが軒を連ね、その中に宿泊施設、食事どころ、日用品を扱う店が点在するといった街並みで、この中を大型トラックが物資を満載にして行き交うような活気に満ちた風情である。  
 ウドムサイ県 (oudomuxay province 旧フランス植民地の影響か province) の関係施設が置かれ、教育施設や金融機関も完備している。まちの再開発が三菱によってなされ、巨大ホテルを中心としたショッピング街の新しい市街地も建設されている。ホテルは何故か未開業であった。  
 周辺からの人口流入が続いているように見受けられた。まちには2箇所大きなマーケットがあり、物資はゆたかである。生鮮食料品もアイテム、量ともゆたかである。不自由しない。  
 バスターミナルからは、さらに北のミャンマー・中国との国境方面の各地へ、首都ビエンチャンへ、ベトナムのテイエンピエンフーへ通じるバス便がある。最近、バス料金は少し高くなっている。Lao Air がビエンチャンへ飛んでいる。中国の援助でビエンチャンから中国国境まで高速鉄道が敷設される。このことは、のちほど新聞記事で紹介します。この鉄道がここウドムサイを通る。これにより、バンコクからラオス主要地域を通り、中国へ通じることになる。来年から着工され数年で完成するという。しかし、観光的には見るべきものは何もないと言っていい。仏塔のあるプータートの丘に登ればまちが眼下に一望できる。この丘に巨大な仏像が建設されている。少し離れば、滝が見えると言うが、よくわからない。ウドムサイは正確にはムアンサイと呼ばれている。地元では、この方が通じる。



←ゲストハウス前の朝の風景。ここではベトナムコーヒーでサンドイッチが食せる。右は早朝より営業するプリジストンのタイヤ屋



←大型トラックから荷を積み替え中。両備運輸の文字。廃ガス規制で使えなくなったジーゼル車の中古。トウモロコシが満載されているトラックをよく見る。中国・ベトナム行きである。



↑バイク屋、農器具屋が軒を連ねる。雑粒機のような。発動機で動かす。露天に展示される。



↑脱穀機、精米機、粉摺り機などが並びます。整然と並ぶ農機。奥には動力噴霧器も発見。農薬の使用が。

←簡易な運搬機。こうしたものも有効。



←建材屋 刃物・スパナなど  
工具→  
こうした店が軒を連ねる。  
電気工具も多種多様。中国



←金融機関。商業銀行。  
24時間 ATM も。

マイクロファイナンスの事務所もある。→



←川べりのピアガーデン風レストラン。



←ウドムサイの特産の展示即売施設。左はウーロン茶。高級なものがある。右は織物など展示。ピエンチャンでの工芸博でもウドムサイから出展されていた。産業起しの活動も活発と思われる。

マーケットの風景



↑橋を渡ってマーケットに向かう。橋から下の川を見る。この汚れっぷりは？橋はパイプむき出し。この橋から前方に向かう道路は中国の支援事業らしい。



↑はしを渡ると、このような看板が。中国に延びるこの道路の注意書きである。ラオスはこのハイウエーの中国支援に深く満足している。2009年4月に工事スタートして、2011年10月に完工した。既存の道路を延長させ、多数の工事現場を技術管理した。建設はまだ半分に達したばかりである。交通信号に留意し交通管理当局の指示に従って安全を確保して走る。などのことが書かれている。半分とは、片側通行があるということか？



↑橋を渡ると、このようなマーケットがある。



←↑マーケットは衣料を始め商品にあふれている。果物はアイテムが豊富。我々にはなじみのないものが多くあり、眼を見張るばかりである。電気店は何故かアンプやDVDレコーダーなどが豊富に並ぶ。テレビはブラウン管。サムソンの薄型は見られない。洗濯機は憧れか？全て中国製。



←動画

電気店の風景。カラオケ機種を選択中

まちはすれのもう一つのマーケット（こちらが庶民的）



↑ 生鮮食品売り場



↑ 生魚・淡水魚セラピア



↑ ヤシの実を剥く



↑ 野菜。一般的に小ぶり



↑ サトイモ様のもの



↑ アヒル生体で販売



↑ 豚の血とうふ



↑ 牛のテール



↑ ソーセージ・腸詰



↑ 大豆のモヤシ様のもの



↑ 豆腐。日本の物と同じ



↑ 物資は豊富であ



↑ コメの商品化も見られる

再び、ウドムサイに戻る。

Aさんの車で、村からウドムサイに戻る。時、暮れなすむ頃である。

観光の見るべき物は無いと言いながら、町が一望できるプータート（Phu Tat）の丘に登ることにした。



←プータートの丘に登る。  
丘には、仏塔、仏像、ワットがある。  
修行僧が下りてくる。  
仏塔が見える。 →



↑ 暮れるウドムサイのまち。中央の白い建物は三菱が開発をしたホテルを中心とする新市街地。



←4人の若者が英語で、人懐っこく声を掛けてきた。ここに来れば外国人が居る。英語で話したいとのこと。ウドムサイで英語学校で学んでいる。毎日の授業ではないようだ。少しでも、英語に慣れようとのことであるようだ。少し会話を交わし、日本で、再会出来るようにと別れた。  
田舎から出てきているようだ。好感のもてる若者である。

ゲストハウス近くのレストランで食事。出会った日本からの旅行者と食事を共にした。この店の春雨スープは口に合う。10時就寝。いよいよ明日はベトナムディエンビエンフーに移動である。